

Nara Women's University

『都城制研究(12)』 発刊にあたって

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 奈良女子大学古代学学術研究センター 公開日: 2018-07-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西谷地,晴美 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10935/4865

『都城制研究(12)』 発刊にあたって

『都城制研究(12)』をお届けします。『都城制研究(1)』が奈良女子大学21世紀COEプログラム報告集として発刊されたのは2007年11月ですから、およそ10年間にわたり本誌の刊行を続けてきたこととなります。

今回の『都城制研究(12)』は、昨年2月に開催した第11回都城制研究集会「都城と交通」での研究成果に基づいたものです。その際のポスターには、「都城が交通の中心となると、どのような交通が展開し、それに伴って人びとの行動や意識はどのように変化し、社会にいかなる質的变化をもたらしたのか。」という的確な問いが設定されていました。私は今から15年以上前に、日本史研究会の大会で「首都論」に関わるテーマを企画したことがありますが、都城制をめぐる諸問題は「首都論」と通底するところが大いにある、極めて重要な研究分野であり続けていると思います。当センターがその研究を今日まで牽引してきた事実は、奈良女子大学にとっても価値あるとても重要なことです。

ところで、これまでの『都城制研究』は古代学学術研究センターの刊行物でしたが、来年度からは古代学・聖地学研究センターから刊行することになります。奈良女子大学が、3月1日付けで「大和・紀伊半島学研究所」を新設するのに伴い、その内部に組み込まれる古代学学術研究センターも、研究対象を紀伊半島まで拡大し、センター名称も古代学・聖地学研究センターに改称するからです。

組織図は衣替えしますが、これまでの古代学学術研究センターが行ってきた活動はそのまま新センターに移行されますので、今後も従来通り、東アジアにおける古代都城制の研究を継続してまいります。今後とも皆様方のご理解・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

2018年2月

奈良女子大学古代学学術研究センター長
西谷地 晴美